



麦づくり情報(No.2)

農試作況データ(2月9日調査)

品種	播種期 (月/日)	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢 (L)	葉色 (SPAD)	概況 (平年・平均と比較して)
シロガネコムギ	11/20	本年	24.3	704	6.3	47.3	[気象] 1月18日~2月8日まで ◆平均気温…平年より1.7℃高い ◆日照時間…少ない(平年比70%) ◆降水量……多い(平年比158%) [生育] ◆草丈 全品種・全作期とも高い。 ◆茎数 12/8 シロガネコムギは平年並み。 その他は多い。 ◆葉齢 11/20 シロガネコムギでやや進んでいる。その他は進んでいる。 ◆生育ステージ(次頁参照) ◆幼穂長及び節間長(次頁参照)
		平年	21.7	707	5.9	45.4	
		平年差(比)	112	100	+0.4	+1.9	
	12/8	本年	16.2	570	4.9	51.4	
		平年	13.2	426	4.3	48.1	
		平年差(比)	123	134	+0.6	+3.3	
サチホゴールド	12/1	本年	21.2	1235	6.3	45.3	
		3ヶ年平均	13.4	730	5.0	43.6	
		平年比(差)	158	169	+1.3	+1.7	
	12/8	本年	17.8	1088	5.2	47.3	
		平年	12.8	555	4.1	42.9	
		平年比(差)	139	196	+1.1	+4.4	
はるか二条	12/1	本年	19.4	1034	6.1	49.9	
		3ヶ年平均	12.6	755	4.7	49.7	
		平年比(差)	154	137	+1.4	+0.2	
	12/8	本年	17.4	794	5.1	51.0	
		6ヶ年平均	12.4	511	4.0	46.8	
		平年比(差)	140	155	+1.1	+4.2	

◎幼穂長と節間長

品種	播種期 (月/日)	測定日 (月/日)	幼穂長 (mm)	節間長 (mm)
シロガネコムギ	11/20	2/8	1.3	4.7
サチホゴールド	12/1	2/8	1.4	4.2
はるか二条	12/1	2/8	1.5	4.9

注1) 1個体当たり主茎及び生育旺盛な分げつ2本の計3本の幼穂を計測。節間長は根の付け根から幼穂の根本までの長さを計測。幼穂長、節間長はその平均。

生育概況

- ・全般的に、平年より気温が高く推移していることや、1月下旬からの降水の影響もあり、平年より草丈は高く、分げつの発生も旺盛となっている圃場が多い。
- ・11月中旬に播種された小麦は、現在7~8葉期、節間長5~10mm、幼穂長2~5mmとなっている。早いところでは、一部茎立ちしている圃場も見受けられる。
- ・12月上旬播種の大麦は、現在6~7葉期、節間長1~5mm、幼穂長1~3mmとなっている。



2. 今後の管理

○穂肥

穂肥は、早く施用しすぎると茎葉が繁茂し、後半の肥切れにつながることから、施用時期は極端に早めないほうが好ましい。

11 月中旬播種の小麦は、早くても2月中下旬頃から施用する。

※茎立期(右図の時期)を迎えた圃場では、麦踏みを行いながらの施肥は避け、動力散粒機やブロードキャスター等で散布する。

◎ 肥効を高めるため、穂肥後に土入れを行うとより効果的である。

○踏圧(麦踏み)

・早期茎立ちの抑制、出穂揃いをよくする効果があるため、条件が良いときに3~4回程度実施する。圃場の土壌水分が高い場合は、土が締まり湿害などで反対に生育を抑制するため、必ず乾いた状態で行う。

・茎立期を迎えた圃場では、茎折れの発生による穂数の減少や株元のなびきにより倒伏に対する抵抗力が弱まるため実施しない。

・麦踏みの最終時期は節間伸長開始期~茎立期まで(草丈 25cm程度)

※節間伸長開始期…節間長が 5mm 以上に達した時期

茎立期…節間長が 20mm に達した時期。

○土入れ

・5葉期以降に雑草防除と排水対策もかねて、圃場の条件をみながら計画的に実施する。

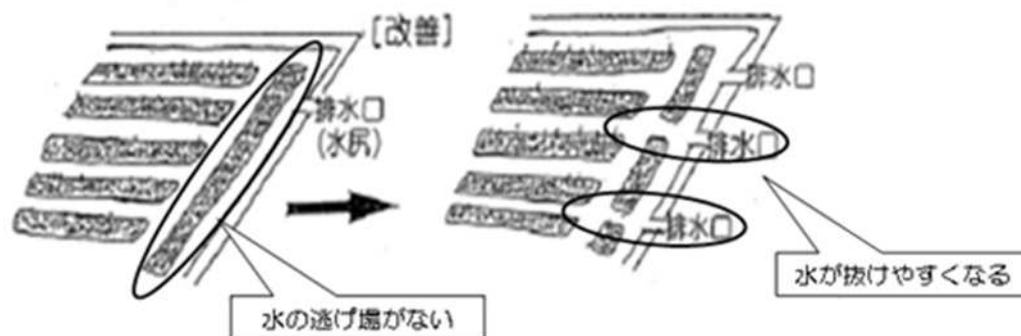
出芽が遅れた圃場では、生育を確認してから開始する。

・土の量は、生育初期は少なめにし、生育が進むにつれて量を増していく。

・肥効を高めるため、追肥後に行うと効果的である。

○排水対策

・生育期間中の湿害が根の張りに大きく影響する。また、今後は降雨量が増えることが予測されるため、速やかに排水できるよう、降雨が多くなる前に、土入れ後は、溝を排水口まで通すなど整備し、圃場内に滞水しないよう管理する。



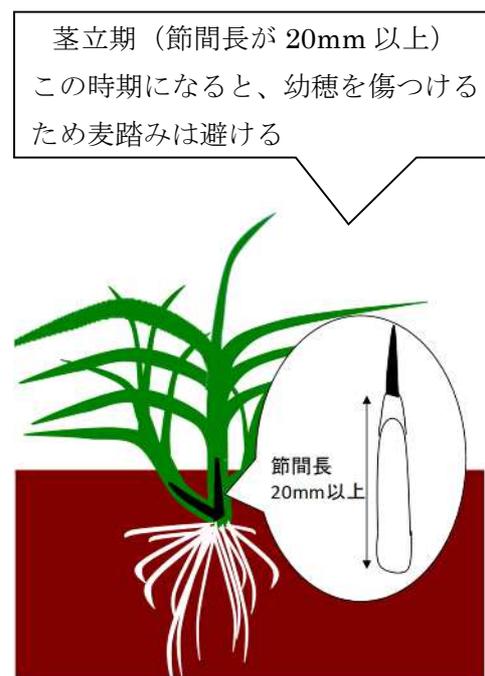
○雑草対策

一部の圃場で 1 年生広葉雑草を中心に雑草(ヤムグラ、キンポウゲ類、アメリカフウコ、ミチヤナギなど)の発生が目立ってきている。現在使用できる生育期除草剤は、草種や使用時期によって効果に差があるため、優先している雑草の種類に応じ、処理時期を逸さないように早めに対処する。

【注意事項】

麦踏み: 麦踏み前後の除草剤散布は、薬害を助長するため避ける。

土入れ: 除草剤散布直後に行うと、有効成分の根部吸収が妨げられるので控える。



農薬名	効果のある雑草	使用量 (/10a)	希釈水量 (/10a)	使用時期	総使用回数	留意事項
ハーモニー75DF水和剤	1年生広葉雑草 スズメノテッポウ カズノコグサ	5~10g	100L	は種後～節間伸長前 (スズメノテッポウ5葉期まで) (カズノコグサ1~3葉期まで) <u>※小麦のみ</u> は種後～穂ばらみ期まで 但し収穫45日前まで	1回以内	・カズノコグサには10g/10aとし、土壌処理剤との体系処理で使用 ・周辺作物(特にタマネギ)への飛散には十分留意する ・ヤエムグラ、カスノコグサへの効果は劣る
バサグラン液剤	1年生雑草 ※イネ科雑草には効果がない	100~200ml	70~100L	生育期(雑草3~6葉期) 小麦は収穫45日前、 大麦は収穫90日前まで	1回以内	・ミヤナギ、カスノコグサ、ミノコナ等への効果は劣る
エコパートフロアブル※1	1年生広葉雑草 ※イネ科雑草には効果がない	50~100ml	100L	節間伸長開始期まで (広葉2~4葉期) (ヤエムグラ2~6節期) ただし収穫45日前まで	2回以内	・薬害が出やすい ・ヤエムグラ優先圃場で使用

※1 以下の場合、薬害が生じることがあるので留意する。

- ・重複散布は避け、麦が生育不良の場合は使用を避ける。
- ・効果、薬害に問題がないことが確認されていない薬剤との同時施用や7日以内の近接散布は避ける

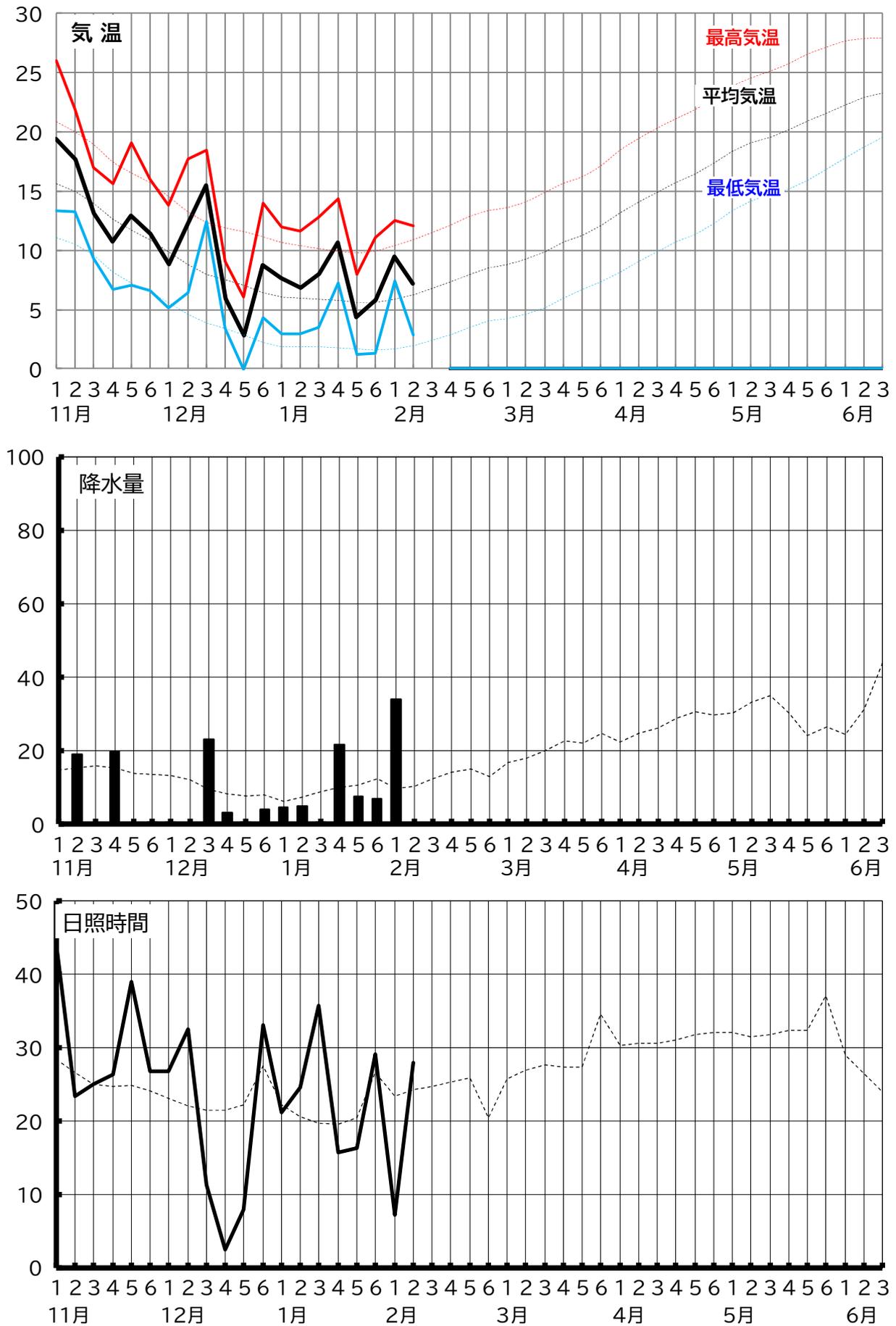
○鳥獣害対策 (カモ)

前号参照

令和6年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値(佐賀)

佐城農業振興センター



※グラフ中の点線は平年値